



関西学院創立125周年記念 大学図書館特別展示会

印刷技術と聖書

～「読む」キリスト教への変容～

2014年10月8日[水]～14日[火]

[開場時間] 9時～21時(最終日は16時閉場)

丸善・丸の内本店4Fギャラリー(丸の内oazo内) 入場無料

[主催] 関西学院大学図書館 [協力] 慶應義塾図書館 [協賛] 丸善株式会社 / 大日本印刷株式会社



関西学院創立125周年記念 大学図書館特別展示会

印刷技術と聖書「読む」キリスト教への変容

ごあいさつ

関西学院は1889(明治22)年、アメリカ人宣教師W.R.ランバスによって、神戸の原田の森にキリスト教主義教育による「創造的かつ有能な世界市民を育む」という理念のもと創立されました。以来多くの方々に支えられ、現在では、幼稚園、小学校、中学校(2校)、高等学校(2校)、短期大学、大学、大学院、インターナショナルスクールを擁する、国際性を備えた総合学園としての歩みを進め、今年で創立125周年を迎えます。これを記念して大学図書館特別展示会を丸善・丸の内本店(丸の内OAZO内)で開催します。本展示では、慶應義塾図書館の協力を得て、印刷物である聖書がキリスト教に与えたインパクトを概観します。

* * *

活版印刷という最新技術を使って最初に発行されたのは聖書でした。それは聖書がヨーロッパ文化においてもっとも重要な、社会の基礎となる書物であったからですが、その後のキリスト教に与えたインパクトを考えると、象徴的な出来事であったとも言えます。

稀少で高価であった聖書や信仰に関する書物が、徐々に、より多くの人が手にすることのできるものとなり、キリスト教を「理解」するために本を手にして「読む」ことが多くなりました。キリスト教徒もそうでない者も、書物を重要視して利用しました。それによって、キリスト教は、今日イメージされるような書物や知識を重視する宗教へと変容させられました。また、キリスト教信仰の内面化、個人化も進められたのです。聖書の印刷は、このようなキリスト教の「変容」の端緒となったのです。

●— 展示構成

- 『42行聖書』とインキュナブラ
- 16世紀プロテスタント宗教改革
- 『欽定訳』聖書とその周辺
- 18世紀イングランドにおけるメソジスト運動と出版
- 日本語聖書と排耶論
- 近代聖書学と印刷技術
- 個人・家庭と聖書

丸善・丸の内本店 4Fギャラリー
〒100-8203 東京都千代田区丸の内 1-6-4



- 交通アクセス
- JR各線「東京駅」丸の内北口 徒歩1分
 - 地下鉄 丸の内線「東京駅」 徒歩5分
 - 地下鉄 東西線「大手町駅」 徒歩5分
 - 地下鉄 三田線「大手町駅」 徒歩5分
 - 地下鉄 千代田線「大手町駅」 徒歩7分



1. グーテンベルク42行聖書 原葉2葉 1455年
2. 善きわざについて 1520年
3. 欽定訳聖書 1611年
4. 説教:ジョージ・ウィットフィールド牧師の死にあたって 1770年
5. エラスムス校注によるギリシャ語新約聖書 1516年
6. 多言語聖書 1657年
7. ラテン語時祷書 写本 15世紀ごろ

同時開催

関西学院創立125周年記念展示 H.S.フォックスウェル文書と日本

関西学院創立125周年記念事業の一環として購入しましたH.S.フォックスウェル文書の一部を展示します。H.S.フォックスウェル文書は、19世紀末から20世紀初頭のイギリスの経済学者であるH.S.フォックスウェルが数多くの人物と交わした約2万4千点の書簡、新聞記事やノートから成る私文書コレクションで、ヴィクトリア時代後期の変貌するイギリス社会や知識階級の生活と新しい経済学の誕生の歴史を現代に伝える貴重な資料です。H.S.フォックスウェルの弟で、東京帝国大学で経済学を教えていたアーネスト・フォックスウェルの書簡などを日本との関わりという観点で展示します。

H.S.フォックスウェル
Herbert Somerton Foxwell
(1849-1936)



【ギャラリートーク】

※お申し込み不要、4Fギャラリーへお集まりください。

10月12日(日) 午後2時~3時

●聖書挿絵を「読む」

関西学院大学 神学部教授 水野 隆一

10月13日(月・祝) 午後2時~3時

●H.S.フォックスウェル文書と日本

関西学院大学 経済学部教授 井上 琢智